千葉県が育成した水稲新品種「粒すけ」の普及拡大

～「粒すけ」で目指す収量向上と倒伏対策～

１　活動のねらい

令和２年度より一般栽培が開始された水稲新品種「粒すけ」の現地ほ場での収量確保と品質の安定を目的として、「粒すけ」と「コシヒカリ」を比較する展示ほの設置、現地検討会を開催し、来年に向けた「粒すけ」の普及拡大を図りました。

２　課題の背景

「コシヒカリ」は食味が良好で市場性が高いことから、千葉市内の多くの水田で作付けされていますが、草丈が伸びやすく、倒伏しやすい欠点があります。

「粒すけ」は、「コシヒカリ」と比較して草丈が短く、倒伏しにくい特性があり、コメは大粒で、食味も「コシヒカリ」と同等です。新品種である「粒すけ」の普及拡大には、実際に千葉地域で栽培し、収量や品質で良い結果が得られるかどうかが課題となっていました。

３　普及活動の経過・結果

（１）生育調査による「粒すけ」の特性の確認と「コシヒカリ」との比較

千葉市若葉区中野町に「粒すけ」と「コシヒカリ」の品種比較展示ほを設置し、生育調査を行いました。定植は５月７日、「粒すけ」は苗の草丈が短く、移植後の水管理に注意が必要でした。定植後、幼穂形成期（７月２日）まで「粒すけ」の草丈は「コシヒカリ」よりも低く推移しました(図 1)。幼穂形成期の「粒すけ」の草丈は 74.6cm、葉色は「粒すけ」36.4、「コシヒカリ」33.2 でした。出穂期は「粒すけ」７月 30 日、「コシヒカリ」7 月 27 日で、収穫は８月 28 日に行いました。収量は「粒すけ」500kg/10a、「コシヒカリ」420kg/10a で、「コシヒカリ」ではやや倒伏が見られました。

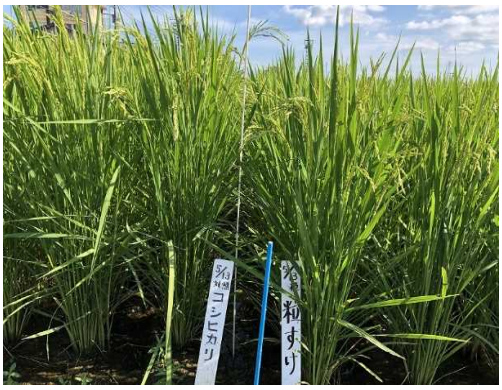

写真１　コシヒカリと粒すけの比較

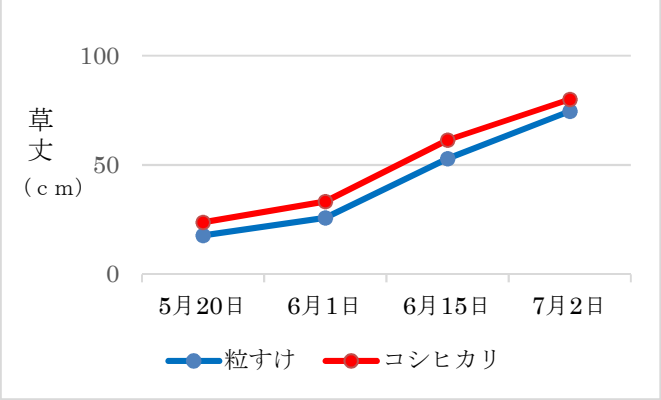

図１　粒すけとコシヒカリの草丈の推移

（２）水稲新品種「粒すけ」現地検討会の開催

千葉市農政センターと展示ほ場を会場として、令和２年８月７日に現地検討会を開催し、関係機関含め２０名の参加がありました。水稲温暖化対策研究室研究員による講義では、「粒すけ」の特性や栽培ポイントの他、経営への取り入れ方について助言をもらいました。また、展示ほ場では「粒すけ」の草丈が短く、草姿の違いが一目瞭然であることを確認しました。参加者からは栽培方法についての質問が多くありました。

写真２　現地検討会（千葉市）

写真３　粒すけの生育状況

４　今後の課題

千葉市内展示ほでの「粒すけ」の収量は５００kg/10a でしたが、他地域では６００kg/10a を収穫した生産者もおり、千葉市においても同等の収量を目指す技術の確立が必要です。本年の展示ほ場の茎数は、「粒すけ」の目標茎数を下回っており、今後は適切な施肥量や、開発が期待される「粒すけ」専用一発肥料の活用について検討していく必要があります。

令和２年産の米価は、およそ「コシヒカリ」１３，０００円/60kg、「粒すけ」は１２，６００円/60kg でした。千葉市の水稲平均収量５１１kg/10a より約３０kg 多い収量５４０kg/10a を収穫できれば、同程度の収入が確保できます。

また、「粒すけ」の食味は良好でしたが、「コシヒカリ」を食べ慣れた生産者や消費者からは、やや物足りないとの感想もありました。長年にわたるコシヒカリ神話に代わるには時間がかかると思われますが、今後もより一層の収量・品質向上を目指し、「粒すけ」の普及拡大を行います。

５　担当者　　千葉・習志野グループ　◎清宮　斉、　黒住　和美

６　協力機関

千葉市、ＪＡ千葉みらい、ＪＡ全農ちば、千葉県農林総合研究センター